

令和6年度（2024年度）第3回東海市幼児教育研究協議会会議録

- 1 会議名 令和6年度（2024年度）第3回東海市幼児教育研究協議会
- 2 開催日時 令和7年（2025年）2月18日（火）
15：00～16：30
- 3 開催場所 東海市役所 501会議室（5階）
- 4 議題
 - (1) 令和6年度（2024年度）事業報告について
 - (2) 令和7年度（2025年度）事業計画（案）について
 - (3) その他
- 5 出席者氏名

幼児教育研究協議委員 13名

学校教育課指導主事（会長）	加藤 雅尚
養父保育園長（副会長）	平松 好美
元東海市立保育園長	大野久美子
雨尾幼稚園長	荒川 信光
雨尾幼稚園主任教諭	稲田由美子
木庭保育園園長	田中 薫
一番畑保育園主任保育士	柳澤 純子
富木島保育園主任保育士	本山恵巳子
三ツ池保育園主任保育士	山田真由子
横須賀小学校長	荒木 映
三ツ池小学校 教務主任	牧野 彰人
明倫小学校 校務主任	小島 悠揮
主任児童委員	早川あかね

事務局

幼児保育課長	小島 英泰
幼児保育課指導保育士	川口 満子
幼児保育課主任保育士	久野えり子
幼児保育課	加藤 郁子

- | | |
|------------|----|
| 6 欠席者 | なし |
| 7 公開・非公開の別 | 公開 |
| 8 傍聴者の数 | なし |
| 9 発言の内容 | |

(1) 挨拶

幼児教育研究協議会 会長 加藤雅尚（学校教育課指導主事）より

お忙しい中、ご出席ありがとうございます。皆様のご協力により、一年が過ぎようとしています。本会議が今年度を閉める会議となります。そして来年度の方向性を決める会議でもあります。昨年10月に幼児教育の在り方について、今年度の最終報告がありました。架け橋プログラムによる幼稚園・保育園と小学校との連携の成果として、登校渋りの減少が見られたという報告がありました。また幼稚園・保育園で主体的に学ぶことは、小学校で主体的に学習する子どもが増えていることにつながり、生かされています。幼稚園・保育園から小学校につなぐカリキュラムにも一貫性が出て、指導、支援の仕方に良い変化がみられるという内容でした。

カリキュラムや教育方法は違いますが、この事業では互いが互いを知り子ども理解につなげ、支援や援助の仕方の共通点や違いを理解しあってきました。このことは非常に効果的だったと思います。そして今後も続けていくことが、成果につながります。成果や課題を明らかにして次年度につなげていけるとよいと思います。

(2) 令和6年度（2024年度）事業報告

資料参照

- ① 幼稚園・保育園と小学校との交流について、資料に添って説明する。

《意見交換》

- ・ 幼稚園・保育園・小学校の交流は、幼保も小学校もどちらの子どもにとってもメリットがあると思う。園児を案内して様子を見ていたら、1年生が保育園児に静かに声をかけたり、背筋が伸びた感じで対応したりしている様子が見られた。小学生が、園児に寄っていき、よりよい姿を見せようとしていた。どのように準備をしてよりよい雰囲気の中で新1年生を向かえ入れることができるか考えているところである。
- ・ 早めに連絡すれば小学校も予定が組みやすい。小学校の職員体制によっては案内ができたりできなかったりするので、あらかじめ調整して進めていけるとよい。
- ・ 小学校の何を見学させていのか、子どもにとってどうありたいのかを前もって小学校に伝えていくとよい。計画的に見学や訪問する。担当者会を利用して、段階を追って計画に入れ込んだり可能な時間帯を確認すること等共有できるとよい。
- ・ 段階的に計画を立てて進められている園が多くなってきた印象がある。できることから進められていると感じる。子どもたちの入学への不安が減り新生活への期待が増すよう、来年度の担当者会でも見学や交流が、計画的に行うことができるように話し合いたい。
- ・ 幼稚園は10以上の学区から通園してきているので、交流が難しいと感じているが、学区の小学校でなくても小学校の雰囲気を味わうことはできると思う。今年度、急であつたが受け入れていただき、小学校の見学をさせてもらった。保育園との交流の時にもう一度見学させていただく予定である。今後も工夫していきたい。

② 研究紀要43号について

資料参照

講師に総評をお願いしている。完成したら皆様に配布する。

③ 保育参観について

資料参照

《事務局より説明》

- ・ 委員を含め、小学校の先生は9校10名参加してくださった。公開保育にも8校11人の先生に参加していただき、幼児教育を知っていた

だく機会になった。

- ・ 幼児教育は環境による保育を・教育を大切にしている。保育参観では4園で様々な素材や道具を使った保育を見せていただいた。
- ・ 協議会では昨年度同様、愛知県幼児教育研究協議会のリーフレットや事例集を参考に、子どもの資質・能力の育ちを整理し確認できた。ほかにも令和3年度から5年度もリーフレットが出されている。
- ・ 今後、リーフレットの活用を保育現場に広げていくことができるとよい。幼児期の育ちを可視化し、お互いの教育現場が子ども理解を深めていくことにつながるとよいと思う。
- ・ 「三つの資質・能力は一体的に育まれる」といことについて、「三つの資質・能力は個別に育むものではなく、遊びを通して総合的な指導の中で、三つが絡み合って育まれている。そのことを「一体的に育まれる」と説明されている。

- (2) 令和7年度（2025年度）事業計画（案）について 別紙参照
資料に基づき事業計画（案）について承認を得る。

《意見交換》

① 公開保育の開催時期について

- ・ 今年度は初めて8月に1園実施したところ、小学校の先生から「時期的に参加しやすかった」と報告をいただいた。（事務局）
- ・ 夏は時期的に教師を派遣しやすい。早めに日程を知らせただけえりとありがたい。
- ・ 夏の開催は教師が参加しやすいことや、夏頃の子どもの成長とその後の期待をもって参観させていただくことができ、有意義だと思う。来年度も実施するとよいと思う。10月から11月には夏からの成長（協同的な姿、言葉による伝え合い等）を観ることができるので、その時期も大切だと思う。

② 授業参観について

- ・ 各学校の指導案の様式について、「小学校名・組・担任氏名・教科・場所・単元、題材・目標（めあて）・学習内容」のわかる形式で、枠はA4用紙の1/4ほどで負担のないようにお願いしたい（事務局）

- ・ 授業参観後の協議会の持ち方について、1年生の下校指導中に担任不在の時間帯があるため、待ち時間が生まれ協議会開始時刻が遅くなる。そのため、情報交換の終了時刻に影響し終了時刻が遅くなることを改善したい。情報交換も幼稚園・保育園が多いと順番待ちの時間が長い。
- 下校指導の時間帯は会場には担任は不在となるが、その後の協議会で話し合うことができるよう幼稚園・保育園・他校の参加教師・委員で感想や小学校への質問をある程度まとめる時間に充てる。
- 子どもの具体的な情報を交換する時間はどの施設においても非常に大切である。前もって小学校側が情報を得たい子どもを各園に知らせておき、その子の情報を中心に話し合う。聞き忘れた場合やその後情報が欲しくなった時はお互いが随時電話連絡等行い進めていく。

(3) その他

- ・ memory tree 社山保育園は、0歳児から5歳児を預かっている私立保育園のため、今年度の保育参観に参加していただいた。今年度の5歳児は少数であるが、今後園児が増えてくることが予想されるため、幼教の事業への参加を考えていく。

《一年を終えて 感想および意見》

- ・ 年度を追うごとに、幼稚園・保育園・小学校のつながりを持つことができたと思う。委員のつながりができると率直な意見交換もできる。
- ・ 今までにない視点で、幼稚園・保育園の様子を話したり考えたりしたことが非常に刺激になった。
- ・ すべての教育現場において活動の意図が大切であることを実感した。
- ・ 保育を参観することで、幼稚園・保育園の違いがわかった。保育園の良いところを幼稚園にも取り入れたいと思った。また、幼保小の連携も、具体的に何ができるか考えていきたい。
- ・ コロナ禍から子どもの不安感が増していると感じる場面がある。子どもが安心して生活できるきっかけ作りをこの事業で行っていると感じた。

以上

議事録確認	幼児教育研究協議会 会長	加藤 雅尚
記録作成者	幼児保育課	加藤 郁子